

**研究者：赤川知沙樹**（所属：東京医科歯科大学 5 年）

## 研究題目：タイ歯科研修プログラム

### 目的：

シーナカリンウィロート大学の歯学部生 4 年生（2021 年 5 月 21 日時点）4 人とのオンライン交流を通して、

- ・国際理解力を向上させ、将来グローバルな課題に対応できる歯科医療人・国際研究者となることを目指す。
- ・タイの歯科医療システムや歯科保健状況を知り、理解する。
- ・タイの歯科教育について理解する。
- ・同大学の歯学部学生との交流を通して、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。
- ・タイの歴史、文化、習慣、言語などを理解し、異文化理解を深める。

### 対象および方法：

対象：歯学部歯学科 5 年生 3 名、3 年生 1 名（2021 年 5 月 21 日時点）

日時：2021 年 2 月 26 日

2021 年 5 月 21 日

日本時間 18 時 30 分～20 時 30 分

方法：ZOOM によるオンライン交流

2 月 26 日の交流は全員自宅から各自自分のパソコンを利用して行った。

5 月 21 日の交流では、本学学生は感染には十分に配慮したうえで会議室に集まり、1 台のカメラで会議室全体の全員の様子を映しながら行った。

予め決めたテーマに対して、PowerPoint の画面を共有し、発表を通して情報交換を行った。

### 交流内容：

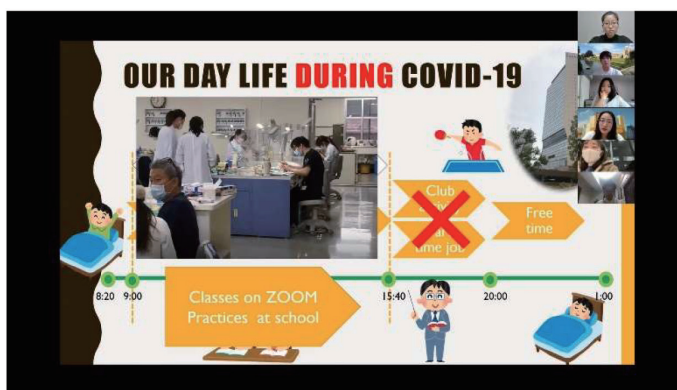
#### 第一回（2 月 26 日）

各人の自己紹介、自校紹介の後、質疑応答・議論を行った。自己紹介では普段の生活や趣味のことや流行の紹介など文化的な内容が中心となった。自校紹介では大学のカリキュラムの紹介や歯科医師になるまでの道のりの紹介などであった。質疑応答の中で出た内容としては、どのような時にストレスを感じどう対処するのか、といったことや、歯学部に入



日本の歯科教育の紹介

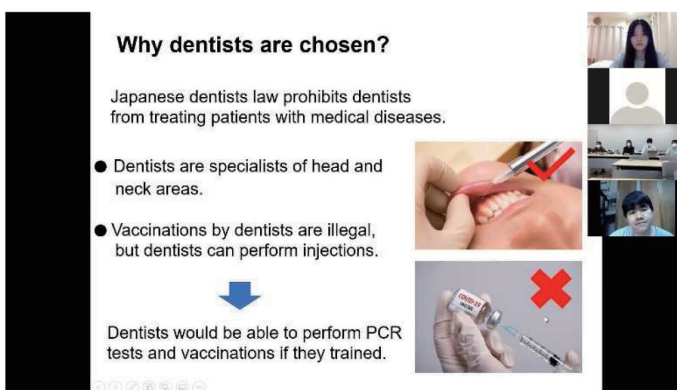
学した理由、国試のシステムと難易度、クラブ活動、留年の制度などについての話であった。国は違えど同年代の歯学を学ぶ学生として共通する悩みや興味があることがわかった。本校からはコロナウイルス感染拡大前後で学生生活がどのように変化したかの紹介も行った。



日本のコロナ前後の生活の変化

## 第二回 (5月21日)

第一回の同様のメンバーで、第一回と同じく ZOOM によるオンライン交流を行った。第二回では新型コロナウイルス感染症拡大中に企画されたこともあり、テーマを「新型コロナウイルス感染症と歯科」とし、各大学の学生でパワーポイントによる資料を作成し、あらかじめ準備を行った。具体的にはワクチン接種に関することや、予防策についての議論を行った。



## 感想：

タイの同年代の学生と様々な話題について直接議論を交わすことができ、また、今回のようなオンラインでの国際交流の参加は初めてであり、とても新鮮で貴重な時間となった。

話題は歯科保健や歯科教育などから日常生活における話まで幅広く非常に興味深かった。タイの環境を知ることで改めて自分自身のおかれた環境を見直すことができいいきっかけになった。

国によって歯科医師になるまでの道のりは大きく異なり、カリキュラムも思った以上に多様であった。また、今回のオンラインの参加者は比較的私よりも高学年であったため、臨床実習の様子などが紹介されることが多かった。私はまだ臨床現場で直接患者の治療を行ったことはないが、とても刺激的であった。

5月の交流は、日本でも医療従事者を対象の中心としてワクチン接種が開始された時期でもあり、コロナウイルス感染に関することやワクチン接種など旬な話題についての議論が多く、現地学生の考えを知ることができ、良い学びの時間になったと思う。普段の学生生活では海外の学生



の生の声を聞く機会はなかなか無いため、今回の交流は非常に有意義な時間であった。それぞれの国の様々なバックグラウンドを抱えた海外の歯科医師についての理解は国際化がますます進む現代の中で非常に重要であり、今回の交流でその一部を知ることができたのではないかと思う。学んだ環境が違えば考え方や感じ方に違いがあるのではないかと今回のオンライン交流のディスカッションの中で感じる事ができたため、バックグラウンドの異なる人との交流による刺激は自らを成長させるきっかけになると思った。それと同時に、これを機に今後も海外の歯学部生や歯科医師、また、歯科情勢についても知る努力をしなければならないと感じた。

#### **今後の展望：**

当初は実際にシーナカリンウィロート大学に訪れ、病棟の見学や授業の参加、学生や大学院生・教員と直接交流をしようと計画を進めていたが、コロナウイルス感染拡大により、渡航が難しくなったため、今回はオンラインで行うこととなった。今回の2回にわたる交流で様々な情報を交換・共有できたと共に親睦を深めることができた。この機会をもとに定期的に連絡を取り合ったり、ネットワークを広げたりして、感染が収束した後には、実際に足を運びたい。

**成果発表：**（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）